

## 第1回 足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会

◎第1回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会が平成19年4月19日に福井厚生年金会館にて開催されました。

### 足羽川ダム工事事務所長挨拶



足羽川ダム工事事務所 岩崎福久所長からの挨拶

### 委員紹介



足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会は、水環境、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、陸産貝類、魚類、陸上昆虫類、底生動物、植物、生態系、付着藻類、河川物理環境を担当分野とされる14人の委員で構成されています。

## 足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 委員名簿

担当分野	氏 名		現 職 等
水 環 境	奥村 充司	おくむら みつし	福井工業高等専門学校環境都市工学科 准教授
	福原 輝幸	ふくはら てるゆき	福井大学大学院工学研究科 教授
哺 乳 類	西垣 正男	にしがき まさお	福井県海浜自然センター 企画主査
鳥 類 (鳥類部会)	松村 俊幸	まつむら としゆき	福井県自然保護課 主任
	久保上 宗次郎	くぼかみ そうじろう	猛禽類研究家
	林 武雄	はやし たけお	日本鳥類保護連盟 理事
	上木 泰男	うえき やすお	日本鳥類保護連盟 専門委員
爬虫類 両生類 陸産貝類	長谷川 巖	はせがわ いわお	福井県両生爬虫類研究会 会長
魚 類 生態系	加藤 文男	かとう ふみお	元仁愛女子短期大学 教授
陸上昆虫類	下野谷 豊一	しものや とよかず	日本鱗翅学会 会員
底生動物	前田 正紀	まえだ まさのり	仁愛女子短期大学 准教授
植 物 生態系	渡辺 定路	わたなべ さだみち	元福井市自然史博物館 館長
付着藻類	安達 誘	あだち さそひ	福井陸水生物研究会 会員
河川物理環境	角 哲也	すみ てつや	京都大学大学院工学研究科 准教授

## 第1回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会での審議骨子

第1回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会では、次のような議事が審議されました。

### I. 委員会の設立

事務局から提案された足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会運営要領の案のとおり承認されました。

### II. 委員長の選出

近畿地方整備局環境影響評価技術検討委員会設置要領第3条3項により福原輝幸委員を委員長に選出しました。



福原輝幸委員長による挨拶

### III. 委員会の公開等

- ・ 委員会は原則公開としますが、貴重種の情報など、必要に応じ、委員の合意を得て非公開とします。
- ・ 委員会資料は原則公開としますが、貴重種の情報など、必要に応じ、委員の合意を得て非公開とします。
- ・ 委員会議事録は非公開とします。議事要旨を公開することとし、発言委員の個人名は公表しないものとします。
- ・ 取材について、円滑な運営を図るため、ビデオ、カメラなどの撮影は委員長挨拶までの間とします。

## 第1回足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会での審議骨子

### IV. 今後の予定について

現場視察会を5月上旬に開催します。水環境、動植物など環境要素別に検討会を開催し、検討結果を次回委員会にて審議することにします。

### V. 事務局からの報告

事務局より以下の事項が報告されました。

- ・ 環境影響評価の流れ
- ・ 事業概要
- ・ 事業実施区域及びその周辺の概況
- ・ 環境面から考慮すべき項目の選定

事務局からの報告に対する委員からの意見及び事務局回答は以下のとおりです。

委員からの意見	事務局回答
治水専用ダムの先事例である益田川ダムの状況を教えて欲しい。	情報を収集し、次回提示する。
治水専用ダムとして試験湛水は必要か。	管理に移行する前に、ダム機能の確認をするため試験湛水は必要である。
試験湛水期間はどれくらいか。	条件によっても変わるが、半年から1年程度必要と想定している。
将来、治水以外の用途に使用可能か。	利水者が撤退し、不特定用水も緊急性が無いと判断され、河川整備計画において治水専用と位置づけられた。現時点で治水以外の用途は想定していない。
公園などのダム周辺整備の計画はあるか。	現在、計画はない。今後、地元の要望を踏まえ検討していく予定である。
ダムが出来ることにより、訪れる人の数も変わってくる。それによる影響を評価項目に考慮すべきではないか。	省令における参考項目に該当する項目はない。今後の検討課題とさせて頂く。
原石採取の工事は、立木の伐採が伴い、猛禽類などに大きな影響があると思われる。	—
導水トンネルを伴う治水専用ダムの洪水調節計画などのダム運用や河川状況を教えて欲しい。	次回委員会において、資料を用意する。
地下水の調査箇所数、位置などを教えて欲しい。	分野ごとの検討会にて、データを提示する。
一般に治水専用ダムは穴あきダム等と言われているが、穴あきダムは自然調整方式のダムのことである。本委員会では流水型など定義をしっかりとっておいた方がよい。	了解。
生態系の全体のデータはどの段階で提示されるのか。	分野ごとの検討会にて、データを提示し、議論して頂く予定である。
水温、富栄養化、溶存酸素量を評価項目から削除している根拠を整理する必要がある。	今後、整理させて頂く。